

## 第5章 情報ニーズ調査結果(1)—大学生、社会人

### 第1節 目的と方法

#### 1 調査の目的

本章と次章で報告する Web 調査の全体の目的は、前章のまとめでも述べた通り、現在我が国において、職業情報に関していかなるニーズが存在するのかを確かめることである。我が国では公的機関が提供する職業に関する情報基盤について、いかなる需要が存在するのだろうか。この点について明らかにすることで、職業情報提供サイトの構想にあたっての基礎的資料を提供することを目指す。

ここで、改めて職業情報とは何かを定義しておく。職業情報とは、広い意味では「職業に関する情報」のことである。ただし、あらゆる情報が等しく重要というわけではなく、一般的に「その職業はどのような仕事をするか」(仕事内容)、「どのようにしてその職業に就くのか」(就くには・なるには)、「その職業の労働条件はどのようなものか」(労働条件)、等が主要な職業情報と見なされることが多い。

一方、「職種情報」とは、職業情報のうち「どのような仕事をするか」、「労働条件はどのようなものか」等を企業・組織等の視点から見た表現である。「職業」については個人の属性として「私の職業は〇〇である」といえるが、企業等が募集、採用、配置転換等、企業活動を行う際は「〇〇の職業を募集する」とは言わず、通常、「〇〇の職種を募集する」と表現する。したがって両概念は厳密には一致するわけではないが、提供されるべき情報の内容自体は共通している場合が多いため、今回の調査では両視点から総合的にニーズを把握することとしている<sup>68</sup>。

なお、今回の Web 調査全体では 5 種類の調査票を準備し、大学生、社会人、企業人事担当者、高校教師、キャリアコンサルタントを対象としているが<sup>69</sup>、まず本章では大学生と社会人の結果のみを先に報告する。この理由は、大学生と社会人のほとんどは職務として職業情報を取り扱うわけではないという点で、その他の対象者は何らかの形で職務上職業・職種情報を取り扱う人々であり、大きく性質が異なるためである。また、大学生・社会人の観点からは「職種情報」ではなく「職業情報」のニーズと見なせるため、本章の調査、ならびに以下の本章の結果報告では「職業情報」の表現のみ使用している。企業人事担当者の「職種情報」のニーズについては次章を参照されたい。

大学生と社会人の職業情報のニーズを測定するにあたっては調査内容が回答者の感覚から乖離し過ぎないように注意して設問の内容・文言を設定した。これは第 I 部で述べた平成 29 年度の「職業情報提供サイト官民研究会」の委員の有識者から、「大学生・社会人は、細分化された職業情報のニーズを聞かれても答えられない」、「そもそも、『職業』と『仕事』を明確に分けていない人も多い」と

<sup>68</sup> たとえば「仕事内容」に関しては、職業情報と職種情報で求められる情報内容はほぼ同一と見なすことができる。一方、「就くには・なるには」は求職者等の視点から見れば重要な職業情報であるが、企業・組織等の視点から見た職種情報としては「採用要件」等、情報の名称・位置づけに違いが見られることになる。

<sup>69</sup> ただし、大学生と社会人、高校教師とキャリアコンサルタントは、それぞれ大部分の調査項目が共通している。

のご指摘があったためである<sup>70</sup>。

上記の方針の下で、大学生・社会人用の調査票では直接的に「職業情報」について尋ねる項目は調査票の最後のいくつかの設問に限定し、それ以外の調査票の大部分については大学生・社会人の一般的な感覚に寄り添って「仕事」や「勤め先」に関する行動、意識、評価を尋ねるものとした。これらの回答結果を本人の状況・文脈も加味しつつ解釈し、いかなる潜在的な職業情報のニーズがあると考えられるか検討することが本章の主たる目的ということになる。

## 2 調査の方法

本章の調査では大学生（1年生・3年生）、ならびに20代～50代の社会人を対象とした<sup>71</sup>

調査の手法としては、調査会社のWebモニターを活用したWeb調査を採用した。回答者は調査会社から送付された協力依頼に基づき、Web上で回答を行った。回答は、パソコンからでもスマートフォンからでも可能であった。1回の協力依頼では目標回収数に達しなかった場合、未回答の人を対象に2回、3回と追加の協力依頼を行った。

調査の実施時期に関しては、2017年11月に開始し、同月中に全て完了した。調査完了までの所要日数は12日間であった。

調査の項目について、大学生用の調査項目の全体構成を図表5-1に、社会人用を図表5-2に示す。両者の調査項目、ならびに調査画面はほとんど同一であったが、フェースシートの一部が対象に合わせて調整されている他、「転職活動」に関する設問は社会人にのみ尋ねている。

<sup>70</sup> なお、当機構の調査に関する報告書ではすべての取得データについて本文中で言及するのが慣例であるが、本章と次章では一部の主要な結果のみ報告している。これは同研究会において、「一般の方が手に取りやすいよう、Web調査に関しては基本構想に関連する結果のみに焦点を絞って報告してほしい」とのご要望をいただいたためである。とはいえ、大学生と社会人については「どのような回答者だったのか」の情報が無いと解釈できない点多いため、当機構のWebサイト(<http://www.jil.go.jp>)にてオンラインの追加資料を公開することとした。回答者の詳しい属性にご関心のある方は、上述のWebサイトで本書のタイトル等で検索の上、適宜「第5章 オンライン追加資料」(付録1)を参照されたい。

<sup>71</sup> 大学生について1年生と3年生を選んだのは、入学して間もない1年生と、就職活動を意識し始めると思われる3年生で結果を比較したかったためである。4年生を調査対象としなかったのは、就職活動状況によっては回答者の感情面での影響・負担が大きいと考えたためである。社会人について20代～50代を選んだのは、いわゆる「現役世代」のコア層の意識を確認したかったためである。60代での定年退職等を背景とした転職・再就職も今日我が国において重要な研究視点ではあるが、50代までとはかなり異質な文脈と考え、今回は調査対象に含めなかった。高齢層のニーズを取れていない点は、本研究の制約、残された検討課題ということになる。

図表 5-1 大学生用の調査項目の全体構成

- ▶ **フェイスシート**
  - ▶ 性別、年齢、学年、学部、居住地
  - ▶ 最も時間を費やしていること、等
- ▶ **現在の働き方、求職活動**
  - ▶ 現在の求職活動状況
  - ▶ 希望する職種 また、具体的にイメージできるか
- ▶ **仕事の選択基準、情報収集の方法**
  - ▶ 仕事の選択基準 勤め先の選択基準
  - ▶ 仕事選択の情報収集の行動
- ▶ **仕事の情報収集で使う書籍・サイト**
  - ▶ 書籍・サイトを使う中で不便だと感じたこと
  - ▶ その他、勤め先の選択に有益な情報
  - ▶ 仕事の情報収集で困ったこと
- ▶ **勤め先の探し方、困ったこと**
  - ▶ 利用するサービス、機関、媒体
  - ▶ 就職活動で困ったこと
- ▶ **職業情報について**
  - ▶ 職業の情報として重要と思われる項目
  - ▶ 職業観（あなたにとって職業選択とは？）
  - ▶ 職業情報サイトの望ましい提供形態
  - ▶ 職業情報サイトを作る場合に、望ましい利用媒体

図表 5-2 社会人用の調査項目の全体構成

- ▶ **フェイスシート**
  - ▶ 性別、年齢、学歴、居住地
  - ▶ 最も時間を費やしていること
  - ▶ これまでの就職経験、初職
  - ▶ 転職経験、転職回数、現職
- ▶ **現在の働き方、求職活動の状況**
  - ▶ 現在の就業状況、求職活動状況
  - ▶ 希望する職種 その仕事についての理解
- ▶ **仕事の選択基準、情報収集の方法**
  - ▶ 仕事、勤め先の選択基準
  - ▶ 仕事選択にあたっての情報収集行動
- ▶ **仕事の情報の収集で使う書籍・サイト**
  - ▶ 書籍・サイトを使って不便だと感じたこと
  - ▶ その他、有益な情報
  - ▶ 仕事の情報収集で困ったこと
- ▶ **勤め先の探し方、困ったこと**
  - ▶ 利用するサービス、機関、媒体
  - ▶ 就職活動、転職活動で困ったこと
- ▶ **職業情報について**
  - ▶ 職業情報として重要と思われる項目
  - ▶ 職業観（あなたにとって職業選択とは？）
  - ▶ 新たな職業情報サイトで欲しい情報
  - ▶ 同サイトでの望ましい提供方法
  - ▶ 同サイトでの望ましい利用媒体

データ収集件数については、大学生は1年生と3年生について男性・女性それぞれ300名、計1,200名を目標とした。Webモニター19,873名に調査協力を依頼し、最終的に大学1年生737名（男性359名、女性378名）、大学3年生687名（男性355名、女性332名）、計1,424名から回答を得た。

社会人は20代、30代、40代、50代について男性・女性それぞれ200名、計1,600名を収集件数の目標とした。Webモニター109,963名に調査協力を依頼し、最終的に20代457名（男性219名、女性238名）、30代454名（男性220名、女性234名）、40代452名（男性224名、女性228名）、50代474名（男性239名、女性235名）、計1,837名から回答を得た。

なお上記の人数は、調査会社が自由記述の内容等により不適切な回答をスクリーニングした後の数字である。各区分で回答数が目標回収数を若干上回っているのは、不備データを除外して目標数に達していることを確認して調査を打ち切るまでのタイムラグの間に、若干の追加回答が集まるためである。

## 第2節 回答者の基本属性

本節では、回答者の年齢、就職経験等、基本的な属性について簡潔に述べる。居住地域等、その他の基本属性に関する詳細は、当機構 Web サイトにて本書のタイトル等で適宜検索の上、「第5章 オンライン追加資料」の付録1を参照されたい。

### 1 大学生の回答者の基本属性

大学生の回答者の年齢は、平均20.0歳、範囲は18～25歳であった。学部・専攻については、概ね文系5割、理系4割、「他計」<sup>72</sup>が少数、という状況であった。約1割に社会人経験があり、7割前後が「非正規の仕事をしている」、「現在、働いていない」人は3割程度である。

求職活動状況については、1年生は「非正規の仕事を探している」の比率が最も高く4～5割程度、「現在、求職活動は行っておらず、過去にも一度もしたことがない」が3割前後だった。3年生は文系では「正社員としての仕事を探している」が33.0%で最も高い一方、理系・他計では「現在、求職活動は行っておらず、過去にも一度もしたことがない」が4割程度と最も多い。

以上の基本属性を踏まえ、本章では次節以降、学年ごとに文系、理系、他計を分けて回答結果を確認することとする。性別を集計に用いなかったのは、大学生の場合、主要な設問への回答状況にさほど大きな性差が見られなかったためである。

---

<sup>72</sup> 本来ならば文系でも理系でもない区分については「その他」と表記すべきだが、この場合、以後の各設問自体にも「その他」の項目が含まれており紛らわしい。そこで本稿では以下、文系でも理系でもない学部・専攻を「他計」と表記する。この他計は、該当者が非常に少なかった「芸術系」、「体育系」を「その他」と集約したものである。

## 2 社会人の回答者の基本属性

社会人の回答者の年齢は平均 40.4 歳、範囲は 20～59 歳だった。「20 代」は 20 代後半に偏る分布となっていた。職業構成について男性は全年齢階層で過半数が「会社員・会社役員」と回答し、その他の就業形態も足し合わせると概ね 9 割前後は何らかの形で働いていた。女性は全年齢階層で「現在は働いていない」が単体の選択肢としては 3～4 割程度を占め最も多く、働いている人は合計で 6～7 割程度、うち「会社員・会社役員」と「パート・アルバイト」の比率がそれぞれ 2～3 割程度で拮抗していた。

最終学歴について男性は全年齢階層で過半数が「大卒・大学院卒」である。一方、女性は「高卒」の比率は男性とさほど変わらないものの、「短大卒」が一定数を占める関係で「大卒・大学院卒」の比率は最多だが過半数には満たなかった。

就職経験については全体で経験者が 89.4%と、社会人の回答者の大多数は何らかの形で就職の経験があるという状況だった。現在の就業状況については、男性では 20～50 代の全ての年齢階層で「正社員」が過半数を占めていた一方、女性では 20 代のみ「正社員」の比率が最も高いものの「非正規」もほぼ同数いた。女性の 30 代、40 代では「非正規」の方が比率は高い。加えて、女性では「現在、働いていない」の比率が男性と比べて高く、50 代女性では 40.0%で最も比率が高くなっている。

求職活動状況については、男性の 40 代・50 代、および女性の全年齢階層で最も多かったのは「現在、求職活動は行っていないが、過去にしたことがある」であった。一方、男性 20 代では「現在、求職活動は行っておらず、過去に一度もしたことがない」が 32.9%で最も多く、次いで「正社員としての仕事を探している」が 29.7%という状況だった。また、男性 30 代に関しては、「正社員としての仕事を探している」が 35.5%で最も多かった。

以上の基本属性を踏まえ、社会人に関しては次節以降、20 代、30 代、40 代、50 代の 4 群ごとに男女で分けて結果を報告する。

### 第3節 仕事の探し方と困ったこと

#### 1 仕事の選択時に行う情報収集行動

まず、回答者が仕事選択時にどのような情報収集行動を行うかについて、大学生の結果を図表 5-3 に示す。「自分の強みや、何をしたいかをはっきりさせる（自己理解）」は全体で4割程度が選択した。図表には記載していないが、排他項目（「答えられない」）を除外した場合の選択率は55.2%となる<sup>73</sup>。大学生にとって、「自己理解」行動はある程度普及していることが示唆される。「自分のやりたい仕事（職務）について情報を調べる」は全体で半数程度、排他項目除外時は66.1%が選択しており、全ての層で選択率が最も高かった<sup>74</sup>。

図表 5-3 大学生の回答者の仕事選択時の情報収集行動（複数回答）

		自分の強みや、何をしたいかをはっきりさせる（自己理解）	自分のやりたい仕事（職務）について情報を調べる（仕事内容、必要なスキルや資格、働き方、など）	企業・組織等の情報を調べる（事業内容、従業員規模、資本金、賃金水準、福利厚生、勤務地、応募条件、など）	仕事（職務）や企業・組織等に関して、それ以外に気になる情報を調べる（やりがいや苦勞、職場の雰囲気、など）	【排他】	その他	n
						仕事を探したことがないので答えられない		
1年生	文系	156 41.8%	202 54.2%	117 31.4%	102 27.3%	83 22.3%	0 0.0%	373
	理系	122 40.0%	157 51.5%	82 26.9%	71 23.3%	72 23.6%	1 0.3%	305
	他計	21 35.6%	34 57.6%	20 33.9%	15 25.4%	13 22.0%	0 0.0%	59
3年生	文系	182 48.8%	188 50.4%	160 42.9%	116 31.1%	70 18.8%	1 0.3%	373
	理系	111 39.4%	130 46.1%	103 36.5%	70 24.8%	78 27.7%	0 0.0%	282
	他計	13 40.6%	14 43.8%	12 37.5%	11 34.4%	11 34.4%	0 0.0%	32
全体		605 42.5%	725 50.9%	494 34.7%	385 27.0%	327 23.0%	2 0.1%	1,424

※選択肢が4以上のクロス集計表において色づけされている箇所は各区分で比較的选择率が高いセルを表す。また、相対的に見て特に选择率が高いセルは濃い色づけの上、文字色を反転している。以下、本章内で同じ。

続いて社会人の結果を図表 5-4 に示す。「自己理解」は全体で35.2%（排他項目除外時は39.8%）が選択していた。ただし性差が見られ、男性では4割前後、女性では2～3割程度の選択率となつて

<sup>73</sup> 「排他項目」とは、複数回答形式の設問において、他の選択肢と同時に選択することができないようシステム上設定されていた項目を表す。以下、同じ。

<sup>74</sup> ただ、裏を返せば「仕事選択にあたって仕事内容を調べない」大学生が3人に1人程度いるということになる。これは単体で見ると驚くべき結果といえるが、次の「企業・組織等の情報を調べる」が全体で3～4割、「仕事（職務）や企業・組織等について、それ以外に気になる情報を調べる」が全体で2～3割程度の選択率であることを踏まえると、「仕事内容というより、企業の概要や雇用条件、やりがいや苦勞などについて情報を集める」人が一定数いると解釈できる。参考までに、排他項目除外の上で「仕事内容」「企業概要」「それ以外の気になる情報」のいずれか一つ以上を選択している大学生の比率を集計すると87.4%となる。大多数が何らかの形で仕事の関連情報を集めていることが分かる。大学生の場合、新卒一括採用で大企業の総合職や自治体公務員等を目指す人が一定数いることを踏まえると、確かに彼らにとっては「仕事の内容」は転属・転勤次第で流動的なものとなるため、待遇ややりがい・苦勞、雰囲気等のほうが気になる情報というのもさほど違和感はない。

いる<sup>75</sup>。「自分のやりたい仕事について情報を調べる」は全体で 57.9%が選択しており、一見すると大学生よりも高いが、排他項目除外時は 65.5%となりほぼ大学生（66.1%）と同等の比率であった。

「企業情報」と「それ以外の気になる情報」の選択率も、排他項目除外時の選択率はそれぞれ 43.5%、36.6%となり、大学生（それぞれ 45.0%、35.1%）とほとんど変わらない<sup>76,77</sup>。

図表 5-4 社会人の回答者の仕事選択時の情報収集行動（複数回答）

		自分の強みや、何をしたいかをはっきりさせる（自己理解）	自分のやりたい仕事（職務）について情報を調べる（仕事内容、必要なスキルや資格、働き方、など）	企業・組織等の情報を調べる（事業内容、従業員規模、資本金、賃金水準、福利厚生、勤務地、応募条件、など）	仕事（職務）や企業・組織等に関して、それ以外に気になる情報を調べる（やりがいや苦労、職場の雰囲気、など）	【排他】	その他	n
						仕事を探したことがないので答えられない		
男性	20代	92 42.0%	117 53.4%	93 42.5%	88 40.2%	35 16.0%	1 0.5%	219
	30代	101 45.9%	128 58.2%	92 41.8%	75 34.1%	18 8.2%	1 0.5%	220
	40代	88 39.3%	122 54.5%	80 35.7%	63 28.1%	32 14.3%	1 0.4%	224
	50代	95 39.7%	139 58.2%	78 32.6%	55 23.0%	34 14.2%	1 0.4%	239
女性	20代	80 33.6%	146 61.3%	108 45.4%	93 39.1%	22 9.2%	0 0.0%	238
	30代	74 31.6%	135 57.7%	99 42.3%	80 34.2%	20 8.5%	1 0.4%	234
	40代	61 26.8%	135 59.2%	84 36.8%	72 31.6%	22 9.6%	1 0.4%	228
	50代	55 23.4%	141 60.0%	71 30.2%	68 28.9%	32 13.6%	1 0.4%	235
全体	646 35.2%	1063 57.9%	705 38.4%	594 32.3%	215 11.7%	7 0.4%	1,837	

## 2 仕事に関する一般的な情報を記載した既存の書籍・サイトの利用状況とその評価

次に、仕事に関する情報源について調査結果を報告する。この点について本章の調査では仕事に関する「一般的な情報」を記載した既存の書籍・サイトの利用状況・評価と、「一般的な情報以外で参

<sup>75</sup> さらに女性の中では年齢階層が高くなるほど選択率が直線的に低くなっており、女性 50代では 23.4%となっている。女性の場合、近年の社会進出の進展によるコーホート（世代間）効果が生じやすく、非正規パートのみ経験したという人の比率が比較的高いと思われる中高年女性の場合は「自己理解」によって適職を探索するという意識は馴染みにくかったのかもしれない。

<sup>76</sup> 参考までに、大学生と同様に排他項目を除外した上で「仕事内容」「企業情報」「それ以外の気になる情報」のいずれか一つ以上を選択している者の比率を見たところ 84.5%となった。したがって大学生と同様、大多数が何らかの形で仕事の情報を集めているといえる。

<sup>77</sup> ただし、「それ以外の気になる情報」の選択率は男女ともに年齢階層が高くなるほど直線的に低くなっていった。近年、過酷な不当待遇により若年者を使い捨てるように働かせる、いわゆる「ブラック企業」が社会問題として注目を集めている。ソーシャルメディアが普及し面識が無い人々間の情報共有手段が飛躍的に増加したことによって、企業が公にしている客観的な情報だけでなく、非公式の主観的だが参考となるような情報への関心が若年層ほど高まっているということかもしれない。しかし、社会人 20代の同選択率（男性 40.2%、女性 39.1%）は大学生の 27.0%と比較しても高くなっている。これは上述の「ブラック企業への若年層の警戒」という解釈では違和感がある。学歴が「大卒・大学院卒」の社会人に限定して集計してみても、20代の同選択率は男性 42.3%、女性 42.1%と高いままであり、選抜効果という解釈も適切とは言えない。一つの可能性として、社会人 20代は 7～8割が就職を経験しているため、大学生と比べて実体験を通して「仕事の内容や、客観的な企業情報よりも、実は非公式な主観的情報等のほうが重要である」と考えるようになったのかもしれないが、本点を精査のためにはさらなる調査が必要である。

考となる情報」に分けて尋ねたが、ここでは紙面の都合から前者の結果のみ報告する。後者の結果についてご関心のある方は「第5章 オンライン追加資料」（付録1）を参照されたい<sup>78</sup>。

#### ・既存の書籍・サイトの利用状況

大学生の結果を図表5-5に示す。「答えられない」が4人に1人程度いることに留意しつつ概観すると、全体では「多様な仕事の情報を扱うWebサイト」の選択率が33.3%で最も高かった。ただし、「適切なものがなく、インターネットで様々検索している」も32.9%と同程度存在し、1年生文系の場合は36.7%で最多である。この他、「特定分野の仕事や業界の情報を扱うWebサイト」も全体で25.4%が選択し、3年生他計では最多となっている<sup>79</sup>。

なお、書籍関連の二つの選択肢に関しては、Webサイトと比べて選択率は低く、大学生にとっては書籍を読むよりもWebサイトで情報収集する方が一般的なものと考えられる。

図表5-5 大学生の回答者の仕事に関する一般的な情報を集めるとき使用するもの（複数回答）

		多様な仕事の情報を扱う一般書籍（「しごと百科事典」（仮名）のような書籍）	多様な仕事の情報を扱うWebサイト（「しごと百科サイト」（仮名）のようなサイト）	特定分野の仕事や業界の情報を扱う一般書籍（「〇〇業界の仕事」というような書籍）	特定分野の仕事や業界の情報を扱うWebサイト（「〇〇業界の仕事」というようなサイト）	適切なものがなく、インターネットで様々検索している	【排他】	その他	n
							仕事について一般的な情報を集めたことがないので答えられない		
1年生	文系	43 11.5%	110 29.5%	54 14.5%	88 23.6%	137 36.7%	94 25.2%	2 0.5%	373
	理系	42 13.8%	88 28.9%	43 14.1%	68 22.3%	88 28.9%	88 28.9%	2 0.7%	305
	他計	5 8.5%	24 40.7%	5 8.5%	16 27.1%	21 35.6%	15 25.4%	0 0.0%	59
3年生	文系	55 14.7%	148 39.7%	68 18.2%	96 25.7%	125 33.5%	69 18.5%	7 1.9%	373
	理系	26 9.2%	96 34.0%	38 13.5%	82 29.1%	86 30.5%	73 25.9%	1 0.4%	282
	他計	3 9.4%	8 25.0%	2 6.3%	12 37.5%	11 34.4%	8 25.0%	1 3.1%	32
全体		174 12.2%	474 33.3%	210 14.7%	362 25.4%	468 32.9%	347 24.4%	13 0.9%	1,424

続いて社会人の利用状況の結果を図表5-6に示す。まず排他項目の選択率について、全体で大学生と同程度となっている点が注目される。前項でも見た通り、社会人の場合でも必ずしも「一般的な情報」を調べずに仕事を選択する人が一定数存在することが示唆されている。

上述の排他項目の状況に留意しつつその他の回答状況を概観すると、全ての層で「適切なものがな

<sup>78</sup> 前者は個別の求人情報とは別に、「どういった仕事か」に関する一般的な情報の情報源について、後者は前項における「それ以外の気になる情報」と対応して、近年のソーシャルメディアの普及等を踏まえて非公式の主観的な情報源について確認するための設問である。

<sup>79</sup> サンプル数が少ないため過度の一般化はできないが、文系・理系という社会の多数派とは異なる学歴・専攻を選んでいる他計の大学生にとっては「多様な仕事」よりも「特定分野の仕事」の情報のほうが使用されているというのは、自然な結果と考えられる。



く、インターネットで様々検索している」が最も選択率が高かった。「多様な仕事の情報を扱う Web サイト」や「特定分野の仕事や業界の情報を扱う Web サイト」については 20 代については大学生と同程度の選択率となっているが、年齢階層が高くなるほど選択率が低くなっている。また、その分書籍関連の選択率が高いというわけでもない<sup>80</sup>。

図表 5-6 社会人の回答者の仕事に関する一般的な情報を集めるとき使用するもの（複数回答）

		多様な仕事の情報を扱う一般書籍（「しごと百科事典」（仮名）のような書籍）	多様な仕事の情報を扱うWebサイト（「しごと百科サイト」（仮名）のようなサイト）	特定分野の仕事や業界の情報を扱う一般書籍（「〇〇業界の仕事」というような書籍）	特定分野の仕事や業界の情報を扱うWebサイト（「〇〇業界の仕事」というようなサイト）	適切なものがなく、インターネットで様々検索している	【排他】	その他	n
							仕事について一般的な情報を集めたことがないので答えられない		
男性	20代	34 15.5%	76 34.7%	38 17.4%	52 23.7%	96 43.8%	45 20.5%	1 0.5%	219
	30代	28 12.7%	58 26.4%	34 15.5%	55 25.0%	105 47.7%	38 17.3%	5 2.3%	220
	40代	11 4.9%	36 16.1%	28 12.5%	36 16.1%	96 42.9%	67 29.9%	4 1.8%	224
	50代	21 8.8%	53 22.2%	21 8.8%	44 18.4%	83 34.7%	73 30.5%	8 3.3%	239
女性	20代	16 6.7%	72 30.3%	20 8.4%	43 18.1%	119 50.0%	40 16.8%	7 2.9%	238
	30代	13 5.6%	55 23.5%	20 8.5%	44 18.8%	109 46.6%	51 21.8%	3 1.3%	234
	40代	13 5.7%	54 23.7%	13 5.7%	31 13.6%	103 45.2%	56 24.6%	2 0.9%	228
	50代	14 6.0%	33 14.0%	18 7.7%	29 12.3%	97 41.3%	79 33.6%	11 4.7%	235
全体	150 8.2%	437 23.8%	192 10.5%	334 18.2%	808 44.0%	449 24.4%	41 2.2%	1,837	

#### ・書籍・サイトを利用して不便だと感じたこと

それでは仕事について一般的な情報を集めるために書籍やサイトを利用しているとき、一体どのような点が不便だと感じられているのだろうか。この点について大学生の回答状況を図表 5-7 に示す。全体で見ると「情報が不正確だったり偏っていたりして、信頼できなかった」が 29.2%で最も選択率が高く、「知りたい情報が無かった」が 27.9%で 2 番目に高かった。3 年生他計を除き、「情報がないか、あっても信頼できなかった」という点に不満を感じている大学生が比較的多かったといえる。

また「1 度に目にする情報が多すぎて、分かりにくかった」と「自分が知りたい情報がどこにあるのか調べにくかった」もそれぞれ 2 割程度が選択しており、前者は 3 年生文系において最も選択率が高かった。したがって知りたい情報が存在していても、その情報の閲覧性が悪かったり、あるいは検索性が悪くなかなかたどり着けなかったりすることが既存の書籍・サイトにおいて不便だと感じる原

<sup>80</sup> 確かに、インターネット上では主に新卒者を対象とした総合的な情報サイト・Web サービスが比較的充実している一方で、社会人向けの情報サイト・Web サービスは手薄な状況にあるものと考えられる。したがって社会人に関しては、大学生以上に仕事に関する「一般的な情報」の収集に苦労しており、場当たりにインターネットで検索するしかない状況にあることが示唆されている。

因になることが示唆された。情報の見せ方・インターフェース等の面での工夫の重要性を示す結果といえる。

図表 5-7 大学生の回答者の書籍やサイトを使う中で不便だと感じたこと  
(複数回答、仕事について一般的な情報を集めたことがある人のみ)

		知りたい情報がなかった	情報が古すぎて参考にならなかった	情報が不正確だったり偏っていたり	書籍の価格、あるいはサイトの利用	情報が実用的ではなかった	情報の種類や量が不十分だった	1度に目にする情報が多すぎて、分か	写真や動画などの視覚的情報がな	自分が知りたい情報がどこにあるの	情報の内容や見せ方が退屈だった	【排他】 特に不便なところはなかった	その他	n
1年生	文系	81 29.0%	66 23.7%	90 32.3%	22 7.9%	32 11.5%	63 22.6%	42 15.1%	38 13.6%	55 19.7%	21 7.5%	54 19.4%	1 0.4%	279
	理系	71 32.7%	43 19.8%	67 30.9%	19 8.8%	30 13.8%	56 25.8%	32 14.7%	23 10.6%	32 14.7%	11 5.1%	35 16.1%	1 0.5%	217
	他計	13 29.5%	12 27.3%	19 43.2%	2 4.5%	5 11.4%	9 20.5%	10 22.7%	5 11.4%	10 22.7%	4 9.1%	6 13.6%	1 2.3%	44
3年生	文系	67 22.0%	45 14.8%	74 24.3%	29 9.5%	36 11.8%	60 19.7%	87 28.6%	24 7.9%	63 20.7%	18 5.9%	60 19.7%	2 0.7%	304
	理系	62 29.7%	35 16.7%	61 29.2%	17 8.1%	23 11.0%	39 18.7%	45 21.5%	25 12.0%	50 23.9%	19 9.1%	29 13.9%	1 0.5%	209
	他計	7 29.2%	5 20.8%	4 16.7%	2 8.3%	3 12.5%	8 33.3%	2 8.3%	2 8.3%	5 20.8%	4 16.7%	6 25.0%	0 0.0%	24
全体	301 27.9%	206 19.1%	315 29.2%	91 8.4%	129 12.0%	235 21.8%	218 20.2%	117 10.9%	215 20.0%	77 7.1%	190 17.6%	6 0.6%	1,077	

続いて社会人の結果を図表 5-8 に示す。まず排他項目である「特に不便なところはなかった」の比率が、大学生と比べて 10%ポイント程度高い点が注目される。20 代に関しては大学生と概ね同じ水準だが、30 代以上の年齢階層では同選択肢の比率が高い傾向が見られ、3 割程度を占めている層もある<sup>81</sup>。

上述の排他項目の選択状況に留意しつつそれ以外の選択肢の回答状況を概観すると、全体で最も選択率が高かったのは「知りたい情報がなかった」の 26.2%、2 番目に選択率が高かったのは「情報が不正確だったり偏っていたりして、信頼できなかった」の 21.4%であった。選択率の 1 位と 2 位で順位は逆転しているが、大学生と同様の点で既存の書籍・サイトに不便と感じる人が多い様子が見える。

<sup>81</sup> この理由については解釈が難しいが、社会人は大学生と比べて仕事の一般的な情報について「適切なものがなく、インターネットで様々検索している」の比率が高かったことを踏まえると(図表 5-6 参照)、本人が欲しい情報を入手するまで「様々検索」した結果、たどり着いた情報源への不満は小さい、ということも考えられる。ただしこの解釈を裏付ける根拠は今回の調査では見られず、精査のためには更なる調査が必要となる。

図表 5-8 社会人の回答者の書籍やサイトを使う中で不便だと感じたこと  
(複数回答、仕事について一般的な情報を集めたことがある人のみ)

		知りたい情報が無かった	情報が古すぎて参考にならなかった	情報が不正確だったり偏っていたり	書籍の価格、あるいはサイトの利用料が高かった	情報が実用的ではなかった	情報の種類や量が不十分だった	1度に目にする情報が多すぎて、分	写真や動画などの視覚的情報がな	自分が知りたい情報がどこにあるの	情報の内容や見せ方が退屈だった	【排他】	その他	n
												特に不便なところはなかった		
男性	20代	61 35.1%	27 15.5%	41 23.6%	16 9.2%	31 17.8%	30 17.2%	31 17.8%	13 7.5%	31 17.8%	12 6.9%	38 21.8%	1 0.6%	174
	30代	57 31.3%	33 18.1%	43 23.6%	19 10.4%	34 18.7%	33 18.1%	26 14.3%	11 6.0%	31 17.0%	6 3.3%	44 24.2%	4 2.2%	182
	40代	47 29.9%	25 15.9%	35 22.3%	12 7.6%	19 12.1%	28 17.8%	13 8.3%	8 5.1%	26 16.6%	6 3.8%	43 27.4%	3 1.9%	157
	50代	39 23.5%	21 12.7%	27 16.3%	6 3.6%	22 13.3%	27 16.3%	15 9.0%	6 3.6%	26 15.7%	6 3.6%	61 36.7%	2 1.2%	166
女性	20代	49 24.7%	38 19.2%	58 29.3%	12 6.1%	24 12.1%	38 19.2%	49 24.7%	20 10.1%	45 22.7%	10 5.1%	45 22.7%	3 1.5%	198
	30代	48 26.2%	30 16.4%	38 20.8%	7 3.8%	23 12.6%	28 15.3%	26 14.2%	12 6.6%	27 14.8%	3 1.6%	52 28.4%	1 0.5%	183
	40代	31 18.0%	18 10.5%	29 16.9%	6 3.5%	16 9.3%	15 8.7%	22 12.8%	4 2.3%	29 16.9%	2 1.2%	60 34.9%	2 1.2%	172
	50代	31 19.9%	20 12.8%	26 16.7%	1 0.6%	15 9.6%	33 21.2%	22 14.1%	12 7.7%	30 19.2%	4 2.6%	48 30.8%	3 1.9%	156
全体	363 26.2%	212 15.3%	297 21.4%	79 5.7%	184 13.3%	232 16.7%	204 14.7%	86 6.2%	245 17.7%	49 3.5%	391 28.2%	19 1.4%	1,388	

### 3 やりたい仕事についての情報収集に困ったこと

さて、本節前項までは主に仕事に関する情報源とその評価を中心に検討してきたが、もう少し具体的に「自分がやりたい仕事」に焦点を絞って情報収集を行う場面では我が国の一般の人々はどのような点で困っているのだろうか。この点について尋ねた結果を、まず大学生について図表 5-9 に示す。

二つの排他項目を見ると、「まだ仕事について情報を集めたことがないので答えられない」が全体で 23.5%、「特に困ったことはなかった」が 9.8%いた。未経験の人が一定数いることは止むを得ないとして、経験したことがある人の中では困ったことが無いという人はごく一部で、大多数は何らかの形で困ったことがあったということになる。

そこで排他項目以外の回答状況を見てみると、まず全体で最も選択率が高かったのは「多くの仕事の中で、どのような仕事が自分に合っているか分からなかった」の 34.5%であった。まだ就職経験の無い大学生にとっては、膨大な選択肢の中からどのような点に注目して仕事を選べばいいのか、判断

が難しい様子がうかがえる。また、「やりたい仕事に自分が向いているか、分からなかった」も全体で31.7%と高く、サンプルサイズは小さいものの他計では最も選択率が高かった<sup>82</sup>。この他、「やりたい仕事が具体的にどのような仕事内容か分からなかった」も全体で27.6%と選択率が比較的高かった。この点はまさに職業情報提供サイトによって問題の解消・軽減が期待される領域と考えられる。

図表 5-9 大学生の回答者の自分がやりたい仕事について情報収集中に困ったこと（複数回答）

		か事多 うがく た自 分の 仕 事 合 の 中 で い る ど の 分 か う ら な 仕	なや り し た い 内 容 か 事 が 具 体 的 に ど の よ う	かや 、 り 分 た い ら 仕 事 か 自 分 が 向 い て い る	資や 格り が 必 要 な 事 か 自 分 の よ う な 免 許 、	かル現 っ、状 た知 た識 は が、 足 り 分 な い ど の 分 か ら な ス キ	身ど にう つ す く れ の ば か 必 要 な ス キ ル や 知 識 が	かよ ら な か っ た 育 訓 練 機 関 が あ る の か ど 分	【排他】 特 に 困 っ た こ と は な か っ た	【排他】 こ ま と だ が 仕 事 に の つ で い 答 え 情 報 を 集 め た	そ の 他	n
1 年 生	文系	126 33.8%	96 25.7%	123 33.0%	30 8.0%	72 19.3%	62 16.6%	38 10.2%	37 9.9%	91 24.4%	1 0.3%	373
	理系	87 28.5%	69 22.6%	86 28.2%	37 12.1%	51 16.7%	45 14.8%	34 11.1%	32 10.5%	82 26.9%	0 0.0%	305
	他計	17 28.8%	14 23.7%	25 42.4%	8 13.6%	11 18.6%	10 16.9%	4 6.8%	2 3.4%	13 22.0%	0 0.0%	59
3 年 生	文系	157 42.1%	120 32.2%	131 35.1%	39 10.5%	80 21.4%	46 12.3%	41 11.0%	28 7.5%	73 19.6%	1 0.3%	373
	理系	98 34.8%	88 31.2%	75 26.6%	34 12.1%	53 18.8%	52 18.4%	21 7.4%	33 11.7%	70 24.8%	0 0.0%	282
	他計	6 18.8%	6 18.8%	12 37.5%	2 6.3%	6 18.8%	5 15.6%	3 9.4%	8 25.0%	6 18.8%	0 0.0%	32
全体	491 34.5%	393 27.6%	452 31.7%	150 10.5%	273 19.2%	220 15.4%	141 9.9%	140 9.8%	335 23.5%	2 0.1%	1,424	

続いて社会人の結果を図表 5-10 に示す。二つの排他項目に注目すると、大学生と同様に未経験で答えられない人が一定数いるほか、「特に困ったことはなかった」の選択率が全体で29.3%と大学生の3倍程度を占めていた。この傾向は年齢階層が高いほど強くなっているが、社会人20代でも大学生の2倍程度の選択率となっている。社会人の場合、実際の就職経験等を通してある程度自己理解・仕事理解が進んでいるため、大学生ほどは困っている人は多くないということが考えられる。

ただし、社会人でも20代、30代では大学生と同様、「多くの仕事の中で、どのような仕事自分が合っているか分からなかった」、「やりたい仕事に自分が向いているか、分からなかった」、および「やりたい仕事が具体的にどのような仕事内容か分からなかった」が一定程度選択されている。した

<sup>82</sup> 紙面の都合から本章では報告していないが、体育系、芸術系などの学部・専攻は、夢や使命感等の「やりたいこと志向」的な職業選択観を持っている学生が文系・理系よりも多い。こうした学生は、確かに「やりたい仕事」は明確化しているものの、だからこそ「それに自分が向いているのか」悩む機会も多いということかもしれない。なお、職業選択観に関する調査結果は「第5章 オンライン追加資料」（付録2）を参照されたい。「やりたいこと志向」の詳細は下村(2002)を参照されたい。

がって社会人の場合でも若い世代では、大学生と同様の面で困っている人が少なくないことが示唆されている。

図表 5-10 社会人の回答者の自分がやりたい仕事について情報収集中に困ったこと（複数回答）

		か事が多かった自分の仕事の中で、どの分かな仕事	なやりた内容が具体的などのよう	かや、分らない仕事に自分が向いている	資格がたい仕事にどのような免許、	か、現状は、自分がどのようなスキル	身どにうすくれば必要ならスキルや知識が	かよ、りたない教育訓練がめ、どの	【排他】	【排他】	その他	n
									特に困ったことはなかった	こまどが仕事について答えられない		
男性	20代	64 29.2%	61 27.9%	61 27.9%	20 9.1%	37 16.9%	33 15.1%	24 11.0%	45 20.5%	40 18.3%	1 0.5%	219
	30代	67 30.5%	57 25.9%	63 28.6%	20 9.1%	42 19.1%	28 12.7%	21 9.5%	49 22.3%	33 15.0%	1 0.5%	220
	40代	46 20.5%	38 17.0%	38 17.0%	21 9.4%	32 14.3%	17 7.6%	6 2.7%	76 33.9%	44 19.6%	0 0.0%	224
	50代	36 15.1%	22 9.2%	30 12.6%	9 3.8%	21 8.8%	13 5.4%	14 5.9%	108 45.2%	50 20.9%	0 0.0%	239
女性	20代	83 34.9%	70 29.4%	83 34.9%	21 8.8%	41 17.2%	32 13.4%	30 12.6%	52 21.8%	27 11.3%	2 0.8%	238
	30代	61 26.1%	43 18.4%	65 27.8%	12 5.1%	34 14.5%	21 9.0%	22 9.4%	65 27.8%	35 15.0%	4 1.7%	234
	40代	47 20.6%	39 17.1%	52 22.8%	17 7.5%	29 12.7%	11 4.8%	18 7.9%	64 28.1%	41 18.0%	2 0.9%	228
	50代	39 16.6%	24 10.2%	38 16.2%	6 2.6%	21 8.9%	15 6.4%	16 6.8%	80 34.0%	53 22.6%	4 1.7%	235
全体	443 24.1%	354 19.3%	430 23.4%	126 6.9%	257 14.0%	170 9.3%	151 8.2%	539 29.3%	323 17.6%	14 0.8%	1,837	

#### 4 就職活動をしていて困ったこと

次に就職活動をしていて困ったことについて、大学生の結果を図表 5-11 に示す。最も選択率が高かったのは、排他項目である「就職活動をしたことがないので答えられない」であり過半数を占めていた。今回の調査対象大学生は就職活動未経験の人が多いため「答えられない」人が多いのは当然であり、他の選択肢についてもおそらく「アルバイト探し」の文脈や、仮に就職活動するとした場合の想像での回答が含まれると考えられる点に留意が必要である。

その上で参考までに他の選択肢の回答状況を見ると、1年生他計を例外として「具体的にどのよう

42.0%という選択率であった。また就活未経験が多い大学生の参考程度の回答ではあるが、その具体的な活動プロセスについて不安を感じている様子がうかがえる。

図表 5-11 大学生の回答者の就職活動中に困ったこと（複数回答）

		具体的にどのよう に就職活動をすれば 良いか分からなかった	どんなスケジュールで 就職活動をすれば良いか 分からなかった	企業について知りたい 情報がなかなか得られ なかった	業界について知りたい 情報がなかなか得られ なかった	職種について知りたい 情報がなかなか得られ なかった	自分の強みや、やりたい 仕事がなかなか分から なかった	その仕事で既に働いて いる人から話を聞くこと ができなかった	履歴書や応募書類でど のようにアピールす れば良いか分からな かった
1 年生	文系	46 12.3%	36 9.7%	41 11.0%	37 9.9%	36 9.7%	29 7.8%	27 7.2%	36 9.7%
	理系	31 10.2%	26 8.5%	23 7.5%	29 9.5%	19 6.2%	29 9.5%	9 3.0%	30 9.8%
	他計	7 11.9%	4 6.8%	10 16.9%	4 6.8%	5 8.5%	3 5.1%	5 8.5%	6 10.2%
3 年生	文系	114 30.6%	93 24.9%	69 18.5%	62 16.6%	55 14.7%	85 22.8%	37 9.9%	77 20.6%
	理系	55 19.5%	46 16.3%	48 17.0%	34 12.1%	34 12.1%	49 17.4%	19 6.7%	31 11.0%
	他計	9 28.1%	6 18.8%	5 15.6%	1 3.1%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	3 9.4%
全体		262 18.4%	211 14.8%	196 13.8%	167 11.7%	152 10.7%	195 13.7%	97 6.8%	183 12.9%

		具体的な応募方法が 分からなかった	どうやって面接の準備を すれば良いか分からな かった	どこに就職相談に行けば 良いか分からなかった	【排他】 特に困ったことはな かった	【排他】 就職活動をしたことが ないので答えられない	その他	n
1 年生	文系	6 1.6%	34 9.1%	9 2.4%	17 4.6%	209 56.0%	0 0.0%	373
	理系	8 2.6%	21 6.9%	5 1.6%	18 5.9%	186 61.0%	0 0.0%	305
	他計	1 1.7%	1 1.7%	1 1.7%	4 6.8%	35 59.3%	0 0.0%	59
3 年生	文系	23 6.2%	68 18.2%	38 10.2%	15 4.0%	145 38.9%	1 0.3%	373
	理系	14 5.0%	35 12.4%	19 6.7%	18 6.4%	134 47.5%	1 0.4%	282
	他計	1 3.1%	4 12.5%	1 3.1%	2 6.3%	17 53.1%	0 0.0%	32
全体		53 3.7%	163 11.4%	73 5.1%	74 5.2%	726 51.0%	2 0.1%	1,424

次に、実際に就職した経験のある人が大多数である社会人の結果を図表 5-12 に示す。全体で最も高かったのは排他項目である「特に困ったことはなかった」の 30.0%であったが、層別に見ると男性 20 代、男性 30 代、女性 20 代についてはそれぞれ別の選択肢が最も選択率が高くなっていた。

まず男性 20 代では「特に困ったことはなかった」の選択率は 16.4%に留まり、「自分の強みや、やりたい仕事になかなか分からなかった」が 23.7%で最も選択率が高かった。また、「具体的にどのように就職活動をすれば良いか分からなかった」、「どんなスケジュールで就職活動をすれば良いか分からなかった」、「履歴書や応募書類でどのようにアピールすれば良いか分からなかった」、「企業について知りたい情報がなかなか得られなかった」もそれぞれ 2 割超が選択している。男性 20 代では、適職の判断、就活の具体的な方法、企業情報の取得等、様々な面で困惑しつつ就職活動を行った様子が見えらる。

男性 30 代、および女性 20 代でも、概ね上述の男性 20 代と同様の項目の選択率が高い傾向が見られるが、女性 20 代の場合は「履歴書や応募書類でどのようにアピールすれば良いか分からなかった」の選択率が 32.4%と高い点が特徴的であった。女性の場合、勤務地を重視して勤め先を選択する傾向が男性よりも強く、20 代では 76.1%で最多選択率となっている<sup>83</sup>。こうした理由で勤め先を選択しようとしている人にとっては、履歴書や応募書類で「志望動機」等を書けと言われても、正直に「家から近いから」と書いて良いものか戸惑うことが多いということかもしれない<sup>84</sup>。

<sup>83</sup> 詳細は「第 5 章 オンライン追加資料」(付録 1) を参照されたい。

<sup>84</sup> なお、調査では就職活動で利用するサービス、機関、媒体等についてもデータを取得している。詳しくは「第 5 章 オンライン追加資料」(付録 2) を参照されたい。

図表 5-12 社会人の回答者の就職活動中に困ったこと（複数回答）

		具体的にどのよう に就職活動をす れば良かったか 分からなかった	どんなスケ ジュールで就 職活動をす れば良かった 分からなかった	企業につい て知りたい情 報がなか なかな か得られ なかった	業界につい て知りたい情 報がなか なかな か得られ なかった	職種につい て知りたい情 報がなか なかな か得られ なかった	自分の強み や、やりたい 仕事がなか なかな か分から なかった	その仕事で 既に働いて いる人から話 を聞くことが できなかった	履歴書や応募 書類でどの ようにア ピールす れば良かった 分からなかった
男性	20代	50 22.8%	47 21.5%	44 20.1%	36 16.4%	35 16.0%	52 23.7%	31 14.2%	48 21.9%
	30代	48 21.8%	44 20.0%	59 26.8%	27 12.3%	28 12.7%	46 20.9%	27 12.3%	35 15.9%
	40代	39 17.4%	37 16.5%	35 15.6%	24 10.7%	24 10.7%	20 8.9%	17 7.6%	25 11.2%
	50代	20 8.4%	16 6.7%	23 9.6%	16 6.7%	15 6.3%	20 8.4%	16 6.7%	21 8.8%
女性	20代	59 24.8%	52 21.8%	46 19.3%	30 12.6%	26 10.9%	71 29.8%	35 14.7%	77 32.4%
	30代	44 18.8%	33 14.1%	39 16.7%	23 9.8%	14 6.0%	51 21.8%	36 15.4%	57 24.4%
	40代	39 17.1%	19 8.3%	16 7.0%	8 3.5%	13 5.7%	40 17.5%	17 7.5%	46 20.2%
	50代	28 11.9%	11 4.7%	20 8.5%	10 4.3%	16 6.8%	28 11.9%	16 6.8%	35 14.9%
全体		327 17.8%	259 14.1%	282 15.4%	174 9.5%	171 9.3%	328 17.9%	195 10.6%	344 18.7%

		具体的な応募 方法が分 からなかった	どうやって面 接の準備を すれば良い か分から なかった	どこに就職相 談に行けば 良いか分 からな かった	【排他】 特に困った ことはな かった	【排他】 就職活動をし たことが ないので 答えら れない	その他	n
男性	20代	12 5.5%	33 15.1%	24 11.0%	36 16.4%	36 16.4%	1 0.5%	219
	30代	6 2.7%	23 10.5%	8 3.6%	52 23.6%	21 9.5%	1 0.5%	220
	40代	4 1.8%	19 8.5%	13 5.8%	73 32.6%	32 14.3%	2 0.9%	224
	50代	1 0.4%	7 2.9%	6 2.5%	98 41.0%	46 19.2%	3 1.3%	239
女性	20代	12 5.0%	27 11.3%	25 10.5%	46 19.3%	28 11.8%	2 0.8%	238
	30代	9 3.8%	20 8.5%	15 6.4%	64 27.4%	19 8.1%	4 1.7%	234
	40代	8 3.5%	25 11.0%	5 2.2%	87 38.2%	20 8.8%	4 1.8%	228
	50代	5 2.1%	9 3.8%	6 2.6%	95 40.4%	30 12.8%	3 1.3%	235
全体		57 3.1%	163 8.9%	102 5.6%	551 30.0%	232 12.6%	20 1.1%	1,837



## 5 転職活動をしていて困ったこと

次に、社会人のみを対象として転職活動をしていて困ったことを尋ねた結果を図表 5-13 に示す。排他項目である「企業・組織等への転職をしたことがないので答えられない」が全体で 24.2%おり、また同じく排他項目である「特に困ったことはなかった」が全体で 23.7%いる。具体的な「困ったこと」に関する回答は社会人の半数程度ということになる。

上記の排他項目の回答状況に留意した上でそれ以外の選択肢を見てみると、全体で最も回答率が高かったのは「求人を見ても、自分にできる仕事か分からなかった（能力面）」の 14.7%であった。転職という文脈では新卒採用とは異なり即戦力が期待されるため、求人情報から求められる能力要件が分からないというのは確かに困惑の原因となるのも自然である。

ただし層別で見ると、別の選択肢の選択率が高い層も見られる。まず男性の 20 代、30 代、女性の 20 代、40 代では、「自分のスキル不足や能力不足で、応募できる求人が少なかった」の比率が 2 割弱を占めていた。したがって男性の比較的若い世代や、女性の若年・中年層では、自分のスキル・能力に見合った求人が無く困っている人が一定数いることが示唆される。

また、女性では男性と比較して「新しい職場の人間関係に馴染めるか不安だった」の選択率が高い傾向が見られた。特に 30 代、40 代では、排他項目を除くと同選択肢が最も選択率が高い。したがって、女性の場合は転職に際して仕事の内容や労働条件というよりも、人間関係での不安が大きいという人も一定数いることが示唆される。

なお、「求人の書き方がバラバラで分かりにくかった」の選択率は総じて低く、10%を超える層はなかった。職業情報提供サイトには労働市場において人々が共通の認識で誤解無く使用できる「言葉」（いわゆる「共通言語」）の提供という役割も期待されており、また次章でも報告される通り企業の人事担当者やハローワークの職員の視点<sup>85</sup>では確かにそうしたニーズが示唆されている（図表 6-4、6-5 参照）。しかし、少なくとも社会人の転職経験者の視点ではさほど求人票の書き方の不統一に困っているわけではないことが示唆されたといえる。

<sup>85</sup> ハローワークの職員の視点については、当機構が 2017 年 8 月に実施した別の調査の結果に基づく。詳しくは第 6 章第 2 節第 2 項参照。

図表 5-13 社会人の回答者の転職活動で困ったこと（複数回答）

		具体的にどのよう に転職・再就職の 活動をすれば良いか分 からなかった	自分のスキ ル不足や能 力不足で、応 募できる求 人が少な かった	これまでの経 験、自分の 能力を生か せる仕事 が少なかった	ある仕事と他 の仕事の間 で、何が共通 していて、何 が違うのか が分からな かった	求人を見て も、具体的に どのような仕 事内容か分 からなかった	求人を見て も、自分にで きる仕事か 分からなかつ た（能力面）	求人を見て も、自分に 合っている仕 事か分から なかった（性 格面）	求人の書き 方がバラバラ で分かりにく かった
男性	20代	29 13.2%	43 19.6%	30 13.7%	27 12.3%	30 13.7%	34 15.5%	28 12.8%	13 5.9%
	30代	31 14.1%	41 18.6%	38 17.3%	27 12.3%	33 15.0%	25 11.4%	28 12.7%	11 5.0%
	40代	32 14.3%	30 13.4%	29 12.9%	21 9.4%	31 13.8%	21 9.4%	20 8.9%	9 4.0%
	50代	16 6.7%	13 5.4%	21 8.8%	10 4.2%	21 8.8%	21 8.8%	12 5.0%	6 2.5%
女性	20代	40 16.8%	45 18.9%	27 11.3%	15 6.3%	32 13.4%	55 23.1%	39 16.4%	9 3.8%
	30代	30 12.8%	31 13.2%	27 11.5%	18 7.7%	30 12.8%	42 17.9%	24 10.3%	16 6.8%
	40代	29 12.7%	44 19.3%	27 11.8%	9 3.9%	12 5.3%	33 14.5%	34 14.9%	10 4.4%
	50代	16 6.8%	21 8.9%	28 11.9%	7 3.0%	31 13.2%	39 16.6%	33 14.0%	8 3.4%
全体		223 12.1%	268 14.6%	227 12.4%	134 7.3%	220 12.0%	270 14.7%	218 11.9%	82 4.5%

		求人にか かれた賃金 を見ても、実 際の手取り がいくらに なるのか分 からなかつ た	応募書類に 自分のして きた仕事、 自分ので きることを どのように 書けば良い か分からな かった	面接で自分 のしてきた 仕事、自分 ができるこ とをどのよ うに表現 すれば良い か分からな かった	新しい職場 の人間関係 に馴染める か不安だつ た	【排他】 特に困った ことはなかつ た	【排他】 企業・組織 等への転職 をしたこと がないので 答えられ ない	その他	n
男性	20代	22 10.0%	18 8.2%	22 10.0%	28 12.8%	28 12.8%	72 32.9%	1 0.5%	219
	30代	22 10.0%	13 5.9%	16 7.3%	26 11.8%	45 20.5%	48 21.8%	1 0.5%	220
	40代	21 9.4%	7 3.1%	8 3.6%	26 11.6%	71 31.7%	45 20.1%	1 0.4%	224
	50代	11 4.6%	7 2.9%	3 1.3%	15 6.3%	87 36.4%	64 26.8%	7 2.9%	239
女性	20代	30 12.6%	18 7.6%	18 7.6%	43 18.1%	36 15.1%	71 29.8%	1 0.4%	238
	30代	23 9.8%	17 7.3%	13 5.6%	47 20.1%	41 17.5%	57 24.4%	0 0.0%	234
	40代	17 7.5%	21 9.2%	22 9.6%	35 15.4%	61 26.8%	38 16.7%	2 0.9%	228
	50代	18 7.7%	9 3.8%	10 4.3%	36 15.3%	67 28.5%	49 20.9%	4 1.7%	235
全体		164 8.9%	110 6.0%	112 6.1%	256 13.9%	436 23.7%	444 24.2%	17 0.9%	1,837

## 第4節 職業の情報に関する意識

前節では主に「仕事」や「勤め先」という視点で回答者の行動、意識、評価等を尋ねてきたが、それでは、より職業情報提供サイトに期待される役割に引き寄せて「職業情報」に焦点を当てた場合どのようなニーズが見られるだろうか。

## 1 重要と思われる職業情報の項目

まず、職業に関する情報を細分化した上で、それぞれの重要性を5段階評価で尋ねた結果を報告する。ただしその際、大学生・社会人にとっては普段「職業」「仕事」「勤め先」の区別はそれほど明確に意識されていないであろうとの前提で<sup>86</sup>、下記のように設問の文言を工夫した。この設問の第一文の意図は、「職業情報」とは個別の企業情報や求人情報とは全く別の概念であることを明確化することであった。

仕事の選択にあたっては企業の情報だけでなく、教師、看護師、プログラマー、デザイナーなど、「職業」について情報を調べることもあるかと思います。あなたが職業について情報を調べる時、どのような内容・項目が重要だと思いますか？一般論ではなく、あなた自身のケースにあてはまる数字一つに○をつけてください。

大学生の結果を図表 5-14 に示す。全体では「賃金や年収の水準、将来的な昇給の可能性」が最も平均値が高かった。「どれくらい稼げるのか？」に関する情報は、大学生にとって関心の高い情報項目といえる。この他、「職業の仕事内容の解説」、「その職業での働き方」、「職場の環境」、「その職業への向き・不向き」、「将来的な職業の動向」、「就くには・なるには」も平均値が高かった<sup>87</sup>。

<sup>86</sup> 詳しくは第1節第1項「調査の目的」を参照されたい。

<sup>87</sup> ただ、この図表 5-14 の結果はやや総花的な印象も受ける。確かに、「職場の様子を写した写真や動画」、「他の職業との関係性」等は相対的に見て低い平均値ではあるが、それ以外の項目はほぼ横並びという状況である。項目間の相対的な重要性を弁別するためには、重要性の順位付けを求める等の工夫をしたほうがより明確な結果が得られたと考えられる。そこで今回の調査では次善の方策として回答者ごとに得点をZ得点に標準化した上での平均値の検討も行っている。ご関心のある方は「第5章 オンライン追加資料」（付録2）を参照されたい。

図表 5-14 大学生の回答者の職業選択において重要と思われる項目（5段階評価の平均値）

		使職 業の 仕事 内容 の解 説「 何を 」	「年 齢・ 職 業に 関 する 経験 によ り、 どの よう な仕 事の 場 合に 変 化 」	属時 する 間の 職業 の か い で 働 き か 方 「 独 立 組 織 に 属 す 」	ん職 場 の 環 境 「 ど ん な 場 所 で 、 ど ん な 環 境 か 」	職 場 の 様 子 を 写 し た 写 真 や 動 画	の 能 力 や 個 性 は 生 か さ る か ？ 「 自 分 の 職 業 へ の 向 き ・ 不 向 き 」	の 給 付 金 や 年 収 の 水 準 、 将 来 的 な 昇 給 の 可 能 性 は い か ん だ ？ 「 」	「そ の 職 業 で の 求 人 数 や 求 人 倍 率 」	定将 来的 な 仕 事 が あ る 動 向 は 今 後 も 安 定 な 動 向 か ？ 「 」	ば就 く に は ・ な る に は 「 ど う す れ 」	キ業 と の 開 係 は ど う な り か ？ 「 」	n
1 年 生	文系	3.87 (0.95)	3.76 (1.01)	3.88 (0.96)	3.89 (0.99)	3.50 (0.99)	3.88 (0.91)	3.98 (0.94)	3.62 (0.97)	3.97 (0.94)	3.87 (0.95)	3.52 (1.00)	373
	理系	3.82 (1.04)	3.76 (1.00)	3.91 (1.02)	4.00 (0.89)	3.40 (0.95)	3.87 (0.93)	4.09 (0.96)	3.57 (0.96)	4.02 (0.95)	3.84 (1.00)	3.42 (1.01)	305
	他計	4.08 (0.82)	3.71 (1.00)	4.10 (0.88)	3.98 (0.94)	3.56 (1.00)	3.93 (0.89)	4.08 (1.00)	3.63 (0.96)	3.97 (1.13)	3.97 (0.91)	3.37 (0.96)	59
3 年 生	文系	3.65 (1.02)	3.68 (1.03)	3.92 (0.99)	4.00 (0.99)	3.42 (1.02)	3.73 (0.96)	3.94 (1.01)	3.52 (1.03)	3.89 (1.00)	3.83 (0.95)	3.42 (0.99)	373
	理系	3.77 (0.99)	3.70 (0.97)	3.87 (0.99)	3.83 (0.99)	3.32 (1.00)	3.71 (0.98)	3.94 (0.98)	3.50 (0.99)	3.88 (0.98)	3.78 (0.99)	3.39 (1.02)	282
	他計	3.69 (0.97)	3.59 (0.84)	3.91 (0.78)	4.06 (0.76)	3.66 (1.00)	3.97 (0.78)	4.03 (0.86)	3.63 (0.79)	4.16 (0.81)	3.75 (0.80)	3.47 (0.84)	32
全体	3.79 (0.99)	3.72 (1.00)	3.90 (0.98)	3.94 (0.96)	3.43 (0.99)	3.81 (0.94)	3.99 (0.97)	3.56 (0.98)	3.95 (0.97)	3.84 (0.96)	3.44 (1.00)	1,424	

※数値は上段が平均値、下段括弧内が標準偏差を表す。

※選択肢は「1. まったく重視しない」、「2. あまり重視しない」、「3. どちらともいえない」、「4. 少し重視する」、「5. とても重視する」の5択。図表 5-20 も同じ。

※各項目の末尾の「」内の文言は、実際の調査票では改行後に記述された。（「職場の様子を写した写真や動画」のみ、該当記述なし。）図表 5-20 も同じ。

※本設問については、やや変則的に平均値上位3セルを色づけしている。図表 5-20 も同じ。

続いて社会人の結果を図表 5-15 に示す。大学生と比較すると総じて各項目の平均値が低いですが、特に「その職業で働き続けた場合の、年齢・経験による仕事の変化」、「その職業への向き・不向き」、「その職業での求人数や求人倍率」、「就くには・なるには」の4項目については大学生と比べて低い平均値となっていた。つまり、社会人の場合、入職関連の情報や中長期的な仕事の変化といった観点の情報については、大学生ほどは重要と考えられていないことが示唆されたといえる。

なお、本設問に関して「その他に重要と思われる職業情報」の自由記述を大学生・社会人を通して概観すると、389件の記述の大半は「特になし」等であり、また具体的な記述がある場合も大半は設定した11種の中に含まれると考えられる内容であった。ごく少数の例外として、「働いている人の体験談」という趣旨の回答が3件、「(新卒) 離職率」との回答が2件、「職場の男女比率」、「具体的な人間関係」、「休みの希望が通るか」、「資格は取れるのか」、「なぜ求人しているかの情報」等が1件ずつ見られた。

図表 5-15 社会人の回答者の職業選択において重要と思われる項目（5段階評価の平均値）

		使職 業の 仕事 内容 の解 説「何 を 」	「年 齢・ 職業 経験 に、 どの よう な事 事の 変化 」	所 属の 職業 の働 きか ら、 「自 営・ 独立 組織 」に 所属 する か、 「何 」	職 場 の 環 境 「ど んな 場所 で、 ど 」	職 場 の 様 子 を 写 し た 写 真 や 動 画	の 能 力 や 個 性 は 生 か せ る か ？ 「自 分 」	の 職 業 の 向 き か ？ 「ど 」	給 付 金 や 年 収 の 水 準 は 「将 来 的 な 昇 」	「そ の 職 業 で の 求 人 数 や 求 人 倍 率 」	定 将 来 的 な 職 業 の 動 向 は 「今 後 も 安 」	ば 就 業 に な る の 「ど う す れ 」	キ ヤ リ ア ア ッ ブ し や ？ 「ど ん な 職 業 」	n
男性	20代	3.56 (1.09)	3.44 (1.00)	3.63 (0.99)	3.69 (1.01)	3.19 (1.00)	3.53 (0.97)	3.70 (1.06)	3.30 (1.02)	3.68 (1.08)	3.45 (1.02)	3.15 (0.91)	219	
	30代	3.69 (0.98)	3.50 (0.97)	3.72 (0.96)	3.69 (0.94)	3.20 (0.95)	3.50 (0.95)	3.91 (0.96)	3.28 (0.96)	3.68 (0.95)	3.50 (0.95)	3.24 (1.00)	220	
	40代	3.72 (0.93)	3.44 (0.96)	3.61 (0.95)	3.63 (0.90)	3.08 (0.93)	3.41 (0.87)	3.78 (0.91)	3.10 (0.94)	3.58 (0.93)	3.41 (0.86)	3.15 (0.83)	224	
	50代	3.67 (0.88)	3.47 (0.87)	3.62 (0.87)	3.65 (0.78)	2.98 (0.79)	3.37 (0.87)	3.74 (0.84)	3.05 (0.79)	3.46 (0.85)	3.34 (0.84)	3.09 (0.81)	239	
女性	20代	3.82 (0.94)	3.60 (0.97)	4.11 (0.87)	4.14 (0.85)	3.53 (1.01)	3.77 (0.91)	4.06 (0.95)	3.32 (1.07)	3.80 (1.03)	3.63 (0.97)	3.26 (1.03)	238	
	30代	3.83 (0.89)	3.50 (0.82)	4.00 (0.88)	4.09 (0.87)	3.50 (0.96)	3.66 (0.92)	3.99 (0.87)	3.29 (0.89)	3.77 (0.87)	3.59 (0.89)	3.27 (0.96)	234	
	40代	3.89 (0.85)	3.49 (0.83)	3.90 (0.83)	4.10 (0.82)	3.32 (0.88)	3.73 (0.87)	3.88 (0.83)	3.19 (0.89)	3.71 (0.86)	3.55 (0.84)	3.18 (0.84)	228	
	50代	3.92 (0.86)	3.51 (0.81)	4.00 (0.84)	4.10 (0.79)	3.37 (0.74)	3.77 (0.78)	3.90 (0.77)	3.29 (0.84)	3.72 (0.80)	3.54 (0.87)	3.19 (0.82)	235	
全体	3.77 (0.93)	3.49 (0.91)	3.83 (0.92)	3.89 (0.90)	3.27 (0.93)	3.59 (0.91)	3.87 (0.91)	3.23 (0.93)	3.68 (0.93)	3.50 (0.91)	3.19 (0.90)	1,837		

※数値は上段が平均値、下段括弧内が標準偏差を表す。

## 2 新たな職業情報提供サイトを構築する場合に、欲しいと思う情報

次に、具体的に職業情報提供サイトの創設可能性という文脈に引き寄せて「もし今後、職業に関する情報サイトが新しく作られる場合、あなたは、どのような職業に関する情報がほしいか」を2項目にわたって尋ねた結果を報告する。一つ目の項目は「さまざまな職業の情報がコンパクトにまとめられた、百科事典のような職業情報がほしい」であり、「広く浅く」と表現できるニーズを表す。二つ目の項目は「自分が関心のある職業、就職できそうな職業を詳しく調べられる、専門書のような職業情報がほしい」であり、「狭く深く」と表現できるニーズを表す。

まず大学生の結果が図表 5-16 である。「広く浅く」という百科事典的な職業情報については、概ね4~5割程度が「YES」、すなわち「ほしい」と回答していた。これに対して「狭く深く」という専門書的な職業情報については、概ね6割程度が「ほしい」と回答していた。大学生の場合、どちらのニーズも一定数存在するが、相対的には専門書的な「狭く深く」のニーズのほうが高いことが示唆されている。

図表 5-16 大学生の回答者の新たな職業情報提供サイト構築時に欲しいと思う情報

		さまざまな職業の情報がコンパクトにまとめられた、百科事典のような職業情報がほしい			自分が関心のある職業、就職できそうな職業を詳しく調べられる、専門書のような職業情報がほしい			n
		YES	どちらともいえない	NO	YES	どちらともいえない	NO	
1 年 生	文系	180 48.3%	158 42.4%	35 9.4%	226 60.6%	128 34.3%	19 5.1%	373
	理系	142 46.6%	123 40.3%	40 13.1%	193 63.3%	94 30.8%	18 5.9%	305
	他計	21 35.6%	31 52.5%	7 11.9%	35 59.3%	19 32.2%	5 8.5%	59
3 年 生	文系	188 50.4%	154 41.3%	31 8.3%	230 61.7%	120 32.2%	23 6.2%	373
	理系	119 42.2%	124 44.0%	39 13.8%	165 58.5%	103 36.5%	14 5.0%	282
	他計	16 50.0%	12 37.5%	4 12.5%	22 68.8%	9 28.1%	1 3.1%	32
全体		666 46.8%	602 42.3%	156 11.0%	871 61.2%	473 33.2%	80 5.6%	1,424

続いて、社会人の結果を図表 5-17 に示す。「広く浅く」という百科事典的な職業情報に関しては、「ほしい」人の比率は 25%程度に留まり、大学生よりも 20%ポイント程度低かった。一方、「狭く深く」という専門書的な職業情報に関しては、「ほしい」人が 4 割程度いた。したがって、社会人の場合は大学生と比較して百科事典的な情報はあまりニーズが無いが、専門書的な職業情報については一定のニーズが見られたものと解釈できる。

図表 5-17 社会人の回答者の新たな職業情報提供サイト構築時に欲しいと思う情報

		さまざまな職業の情報がコンパクトにまとめられた、百科事典のような職業情報がほしい			自分が関心のある職業、就職できそうな職業を詳しく調べられる、専門書のような職業情報がほしい			n
		YES	どちらともいえない	NO	YES	どちらともいえない	NO	
男性	20代	65 29.7%	121 55.3%	33 15.1%	84 38.4%	108 49.3%	27 12.3%	219
	30代	66 30.0%	119 54.1%	35 15.9%	95 43.2%	104 47.3%	21 9.5%	220
	40代	55 24.6%	126 56.3%	43 19.2%	94 42.0%	109 48.7%	21 9.4%	224
	50代	37 15.5%	169 70.7%	33 13.8%	78 32.6%	141 59.0%	20 8.4%	239
女性	20代	91 38.2%	106 44.5%	41 17.2%	132 55.5%	88 37.0%	18 7.6%	238
	30代	70 29.9%	131 56.0%	33 14.1%	106 45.3%	104 44.4%	24 10.3%	234
	40代	51 22.4%	141 61.8%	36 15.8%	85 37.3%	119 52.2%	24 10.5%	228
	50代	40 17.0%	154 65.5%	41 17.4%	96 40.9%	114 48.5%	25 10.6%	235
全体		475 25.9%	1067 58.1%	295 16.1%	770 41.9%	887 48.3%	180 9.8%	1,837

ただし、社会人の回答状況に関しては、別の設問にてデータを収集した本人の「職業選択観」を加味すると別の結果が見えてくる<sup>88</sup>。図表 5-18 は、社会人を八つの群<sup>89</sup>に分けて追加集計を行った結果である。この図表からは、適職探索群<sup>90</sup>では 40.8%、役割準拠群<sup>91</sup>では 35.8%と、社会人であっても本人の職業選択に対する認識次第では百科事典的な職業情報のニーズもあることが読み取れる。もちろん、比率としては社会人全体に占める適職探索群の比率は大学生ほど高く無いが、社会全体における大学生の総数と社会人の総数では後者のほうが圧倒的に多いので<sup>92</sup>、百科事典のような幅広い職業情報に関する社会人の適職探索者のニーズも本章の調査で一定程度確認できたといえる。

<sup>88</sup> 職業選択観に関する調査結果の詳細は「第 5 章 オンライン追加資料」（付録 2）を参照されたい。

<sup>89</sup> 職業選択観に基づく「八つの群」の詳細については「第 5 章 オンライン追加資料」（付録 3）を参照されたい。

<sup>90</sup> 適職探索群とは、職業の選択を「求職活動の開始時に自己分析や業界研究を行い、自分に合った職業を選ぶもの」と見なしている人々を表す。

<sup>91</sup> 役割準拠群とは、職業の選択を「家庭や地域における周囲の期待や、自分に求められる役割に合った職業を選ぶもの」と見なしている人々を表す。

<sup>92</sup> 文部科学省(2017)の「文部科学統計要覧(平成 29 年版)」によれば、2017 年度の全国の大学生は約 257 万人である。一方、総務省統計局(2017)の「人口推計—平成 29 年 12 月報」によれば、2017 年 12 月現在の概算値として、本章の調査の社会人の回答者の主な構成員である 25～59 歳は約 6,217 万人である。したがって、仮に本章の調査における適職探索群の比率(大学生 30.5%、社会人 17.2%)がそのまま母集団比率を反映するとすれば、適職探索群の該当者数は大学生約 78 万人、社会人(25～59 歳)で約 1,069 万人となる。ここにさらに「百科事典のような職業情報」を「ほしい」比率(大学生 57.4%、社会人 40.8%)を乗ずると、大学生の適職探索群で「ほしい」人は約 45 万人、社会人(25～59 歳)の同群で「ほしい」人は約 436 万人となり、非常に大雑把な概算ではあるが人数としては約 10 倍のニーズがあるとも見なせる。

一方、「専門書のような職業情報」についても基本的には適職探索群、経歴準拠群<sup>93</sup>、役割準拠群、専攻準拠群<sup>94</sup>等、職業情報提供サイトの潜在的需要が高い群<sup>95</sup>ほど「YES」率が高く、過半数を超えていた。百科事典のような職業情報と同じく専門書的な職業情報についても、社会人の適職探索者等については、大学生に近いニーズが確認されたといえる。

図表 5-18 社会人の職業選択観別の職業情報提供サイトに欲しい情報

	さまざまな職業の情報がコンパクトにまとめられた、百科事典のような職業情報がほしい			自分が関心のある職業、就職できそうな職業を詳しく調べられる、専門書のような職業情報がほしい			n
	YES	どちらともいえない	NO	YES	どちらともいえない	NO	
適職探索	129 40.8%	154 48.7%	33 10.4%	206 65.2%	91 28.8%	19 6.0%	316
経歴準拠	155 28.3%	292 53.4%	100 18.3%	290 53.0%	203 37.1%	54 9.9%	547
役割準拠	107 35.8%	149 49.8%	43 14.4%	161 53.8%	115 38.5%	23 7.7%	299
専攻準拠	77 27.8%	149 53.8%	51 18.4%	150 54.2%	99 35.7%	28 10.1%	277
選択不要・不可	62 25.7%	137 56.8%	42 17.4%	97 40.2%	121 50.2%	23 9.5%	241
企業準拠	26 20.8%	81 64.8%	18 14.4%	36 28.8%	75 60.0%	14 11.2%	125
未検討	17 11.5%	111 75.0%	20 13.5%	20 13.5%	110 74.3%	18 12.2%	148
求職未経験	100 23.2%	261 60.6%	70 16.2%	142 32.9%	244 56.6%	45 10.4%	431
全体	475 25.9%	1067 58.1%	295 16.1%	770 41.9%	887 48.3%	180 9.8%	1,837

### 3 新たな職業情報提供サイトの望ましい提供形態、利用可能電子機器

最後に、新たな職業情報提供サイトを構築するとした場合、その構築にあたって望ましい提供形態、ならびに望ましい利用可能電子機器について尋ねた結果を報告する。大学生の結果が図表 5-19 である。提供形態については「インターネットを通じて、無料で、職業情報が提供されること」が8~9割を占め圧倒的多数であった。一方、望ましい利用可能電子機器に関しては「スマートフォン」が8

<sup>93</sup> 経歴準拠群とは、職業の選択を「これまでの経歴・職歴の延長線上で、特定の職業を選ぶもの」と見なしている人々を表す。

<sup>94</sup> 専攻準拠群とは、職業の選択を「学校の専攻（例：美容、保育、医療）が、そのまま特定の職業へと続いているもの」と見なしている人々を表す。

<sup>95</sup> 各群と「職業情報提供サイトの潜在的需要」の関係について、詳細は「第5章 オンライン追加資料」（付録3）を参照されたい。



～9割を占め、3年生他計では全員が選択する等、圧倒的多数であった。また「パソコン」も5割程度が選択しており、「タブレット」も2割程度が選択している。

図表 5-19 大学生の回答者の新たな職業情報提供サイト構築時に  
望ましい提供形態、利用可能電子機器（各複数回答）

		望ましい提供形態				望ましい利用可能電子機器				n
		インターネットを通じて、無料で、職業情報が提供されること	ネット環境のないオフラインで利用できる電子媒体での提供（CD-ROM他）	印刷媒体での提供（書籍等）	その他	パーソナルコンピュータ（パソコン）	タブレット	スマートフォン	その他	
1年生	文系	316 84.7%	69 18.5%	93 24.9%	1 0.3%	161 43.2%	97 26.0%	322 86.3%	0 0.0%	373
	理系	262 85.9%	75 24.6%	57 18.7%	1 0.3%	174 57.0%	80 26.2%	261 85.6%	1 0.3%	305
	他計	53 89.8%	11 18.6%	10 16.9%	0 0.0%	28 47.5%	15 25.4%	51 86.4%	0 0.0%	59
3年生	文系	318 85.3%	77 20.6%	85 22.8%	2 0.5%	186 49.9%	70 18.8%	324 86.9%	0 0.0%	373
	理系	250 88.7%	31 11.0%	73 25.9%	0 0.0%	155 55.0%	55 19.5%	244 86.5%	0 0.0%	282
	他計	28 87.5%	4 12.5%	6 18.8%	0 0.0%	12 37.5%	8 25.0%	32 100.0%	0 0.0%	32
全体		1227 86.2%	267 18.8%	324 22.8%	4 0.3%	716 50.3%	325 22.8%	1234 86.7%	1 0.1%	1,424

続いて、社会人の結果が図表 5-20 である。提供形態に関しては大学生と同様、9割前後と大多数が「インターネットを通じて、無料で、職業情報が提供されること」を選択していた。一方、利用可能電子機器に関しては、男性 20 代、女性 20 代・30 代では大学生と同様「スマートフォン」の選択率が 7～9 割程度と選択率が高かったが、それ以外の層では「パソコン」のほうが選択率が高かった。特に男性 40 代、男性 50 代では「パソコン」が 8 割超の選択率となっており、「スマートフォン」よりも 30～40%ポイント程度高くなっている。こうした状況を踏まえると、現状では「パソコン」からも「スマートフォン」からも閲覧可能な形での情報提供が重要であることが示唆される。

ただし、今回の調査は Web モニターを活用した調査のため、パソコンやスマートフォンとの親和性が比較的高いサンプルであったことには注意が必要である。これらの電子機器に馴染みの薄い人々をも含む調査を実施した場合、特に中高年層については回答傾向は異なるものとなる可能性がある。

図表 5-20 社会人の回答者の新たな職業情報提供サイト構築時に望ましい提供形態、  
望ましい利用可能電子機器（各複数回答）

		望ましい提供形態				望ましい利用可能電子機器				n
		インターネットを通じて、無料で、職業情報が提供されること	ネット環境のないオフラインで利用できる電子媒体での提供（CD-ROM他）	印刷媒体での提供（書籍等）	その他	パーソナルコンピュータ（パソコン）	タブレット	スマートフォン	その他	
男性	20代	200 91.3%	34 15.5%	45 20.5%	1 0.5%	148 67.6%	65 29.7%	159 72.6%	1 0.5%	219
	30代	194 88.2%	35 15.9%	40 18.2%	4 1.8%	157 71.4%	75 34.1%	154 70.0%	0 0.0%	220
	40代	208 92.9%	13 5.8%	31 13.8%	3 1.3%	186 83.0%	59 26.3%	117 52.2%	0 0.0%	224
	50代	218 91.2%	12 5.0%	57 23.8%	5 2.1%	193 80.8%	52 21.8%	96 40.2%	3 1.3%	239
女性	20代	225 94.5%	33 13.9%	42 17.6%	0 0.0%	109 45.8%	51 21.4%	215 90.3%	0 0.0%	238
	30代	219 93.6%	15 6.4%	39 16.7%	0 0.0%	123 52.6%	65 27.8%	202 86.3%	0 0.0%	234
	40代	207 90.8%	23 10.1%	48 21.1%	1 0.4%	150 65.8%	46 20.2%	145 63.6%	1 0.4%	228
	50代	207 88.1%	14 6.0%	65 27.7%	5 2.1%	183 77.9%	44 18.7%	103 43.8%	1 0.4%	235
全体		1678 91.3%	179 9.7%	367 20.0%	19 1.0%	1249 68.0%	457 24.9%	1191 64.8%	6 0.3%	1,837

## 第5節 本章のまとめ

本章では職業情報のニーズに関する Web 調査の結果について、まず社会人と大学生の結果について報告を行った。職業情報のニーズ、および職業情報提供サイトの基本構想に直接的に関連する主要な知見をまとめると、下記 6 点となる。

- ① 仕事に関する一般的な情報を集めるにあたり、既存の書籍・サイトについては「そもそも情報がない」、あるいはあったとしても「信頼できない」との回答が比較的多かった。（図表 5-7、5-8）
- ② やりたい仕事の情報収集にあたっては、「どのような仕事が自分に合っているか」や、「やりたい仕事に自分が向いているか」について分からずに困ったとの回答が比較的多かった。（図表 5-9、5-10）
- ③ 就職活動中に困ったこととしては、大学生では未経験者が多かったものの、「具体的にどのように就職活動をすれば良いか分からなかった」との回答が比較的多かった。社会人については「特に困

ったことはなかった」人も多かったものの、特に女性の若年層ほど「履歴書や応募書類でどのようにアピールすれば良いか分からなかった」との回答が比較的多かった。(図表 5-11、5-12)

- ④ 社会人の転職活動中に困ったこととしては、「求人を見ても、自分にできる仕事か分からなかった(能力面)」、「自分のスキル不足や能力不足で、応募できる求人が少なかった」との回答が比較的多かった。(図表 5-13)
- ⑤ 職業選択において重要と思われる職業情報項目に関しては、大学生では総じて得点が高く、「賃金や年収の水準」、「その職業での働き方」、「職場の環境」等が特に重視されていた。一方、社会人の場合も概ね同様の項目の得点が高かったが、大学生と比べると特に入職関連の情報や中長期的な仕事の変化といった観点の情報の得点が低いなど、回答にはメリハリがあった。(図表 5-14、5-15)
- ⑥ 「百科事典のような職業情報」は、大学生では半数弱が「ほしい」と回答したが、社会人では 25% 程度にとどまった。一方、「専門書のような職業情報」は、大学生では 6 割程度が、社会人でも 4 割程度が「ほしい」と回答していた。ただし、社会人についても適職探索を行おうとしている人では大学生に近い回答状況であった。(図表 5-16、5-17、5-18)

特に職業選択観から整理した場合、社会人の中でも職業情報提供サイトの潜在的な利用者と想定される人々において相対的にニーズが高かったという点は、公的な職業に関する情報を必要とする人々に向けて客観的で信頼できる情報を提供する意義を示すものと考えられる。

#### 【参考文献】

- 文部科学省 (2017). 「文部科学統計要覧 (平成 29 年版)」 <[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/002/002b/1383990.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/002/002b/1383990.htm)> (2018/02/20 参照)
- 下村英雄 (2002). 「第 4 章フリーターの職業意識とその形成過程—「やりたいこと」志向の虚実」  
小杉礼子編 『自由の代償／フリーター—現代若者の就業意識と行動』 日本労働研究機構 所収
- 総務省統計局 (2017). 「人口推計—平成 29 年 12 月報—」 <<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/201712.pdf>> (2018/02/20 参照)